



10/4実施 第3回 小川晶保育ゼミ

R5.10.31 保育センター 発行

第3回では、「環境の中での子どもの尊重」について学び、組織での保育の実施についてもお話を伺いました。グループワークでは、「環境の中でのあたりまえ」について参加者が振り返りました。

子どもを尊重することのキーワード：「主体的」

改めて意識していきましょう！

せんせいのマネしたい

子どもが主体的に環境に触れられるようにしていきましょう。そのためには、子どもが育つ環境を整え、組織で保障していくことが大事なポイントです。

「物的環境」を整える



発達や子どもに合っている

→成長発達や興味関心に沿った玩具やあそびの提供

試行錯誤や探求ができる

→自分であそびを決め、考えていけるようにする

ゾーニングがされている

→各あそびがやり込めるための保障や、子どもが主体的に参加できる保護をする

「人的環境」を整える



大人がモデル

→大人の行動そのものが、子どもの行動の欲求になる

信頼できる大人

→信頼できる大人がいるから、探索・試行錯誤する

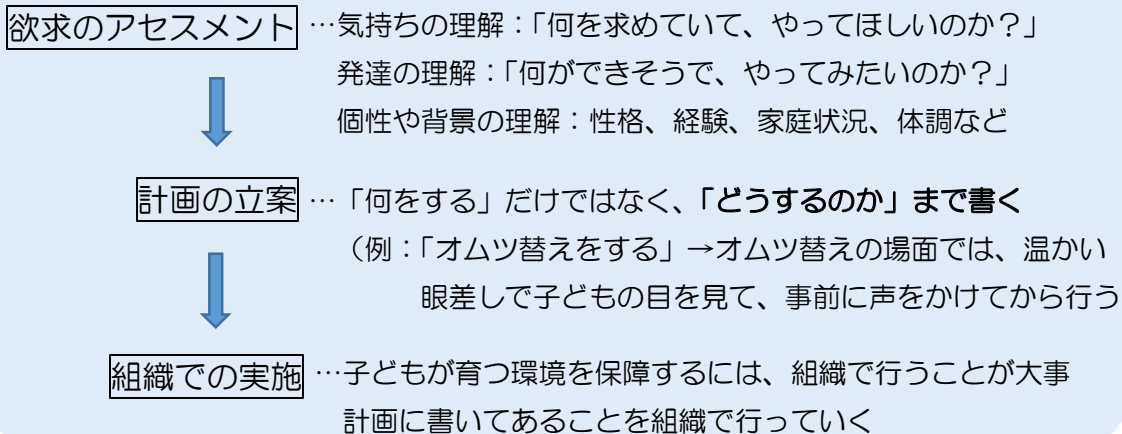
気持ちへの寄り添い

→子どもの「やりたい！」気持ちに、「(これかな？これかな?)」と考えながら環境を作る

自然にふれられる環境であることや、物的環境が整っていることにより、子どもは能動的に環境に関わっていきます

整えた物的環境の中で、保育者がどのように子どもに関わるかが大事になります

子どもを尊重した保育の実施に向けて



保育を実施した後は…

振り返り、再アセスメント等をして、その都度環境を整えていきましょう

受講者の感想

室内環境における命令しない物とする物の意味をしっかりとクラスで共有した上で選別していき、環境を整えていきたい。また、発達・個性・背景を理解し、欲求をアセスメントすることで、関わり方も変えていきたい。

【みなみ保育園 E先生】

物的環境がしっかり揃っていても、人的環境で間違ってしまうと遊びが発展していかなかったり、満足して遊びに向かえないと感じた。しっかり園としてどんな関わりをしていくのか考え実践していく。

【和光プライムスター保育園 M先生】

遊びの中で「〇〇？」と聞きがち、決めずまいがちですが、大人が解を決める、提案するのではなく、子ども自身が考えて決められるよう寄り添って関わり、子ども主体で尊重できるようにしていきたいです。

【下新倉リトルスター保育園 K先生】